

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2014 年 3 月 4 日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 修士 2 年

参加プログラム: Building TOMODACHI project

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 ⑦.その他()

参加プログラムの概要 日米の学生を対象に、リーダーシップ開発や市民社会参画のモデルについて学ぶプログラムです。アメリカの学生とのグループワークがある他、市民社会参画・グローバル化社会におけるリーダーシップ能力開発についての講義やワークショップ、パネルディスカッションが開かれます。また世界銀行等の国際機関や、アメリカの NPO を訪れる機会もあります。
参加した動機 ・東日本大震災後の市民活動について学びたかったから ・アメリカの学生との交流に興味があったから ・リーダーシップやパブリックスピーキングなどのレクチャーを受講したかったから
参加の準備 ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 推薦書等が必要となるので、早めに手続きを進めることが大切です。 ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 必要なし ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 必要なし ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 海外旅行保険に加入しました。 ⑤ 参加にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(授業履修・単位・試験・論文提出等に関して) 海外渡航届の提出が必要です。 ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 特になし ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 特になし
学習・研究について ①プログラムのスタイル、印象に残っている内容等 講義やワークショップのほかにも、ワシントン D.C.の NPO や国際機関の視察、アメリカの学生とのチームプロジェクトを通じた交流など、多彩なプログラムを受けることができました。 ②学習・研究面でのアドバイス 特になし ③語学面での苦労・アドバイス等 特になし
生活について ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) すべて TWC で手配済でした。 ② 生活環境(気候、周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 自己負担するお金はほぼありませんでした。 ③ 危機管理関係(渡航先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 特になし

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
特になし

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
特になし

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
特になし

参加プログラムの環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
TWC のスタッフの方が全面的にサポートしていただきます。

② 設備面の状況(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
今回の宿泊先には、洗濯室・ジム・PC ルームがありました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他の所感

何よりもプログラムを通じて出会えた日米の学生や、講師の方々、訪問した NPO や国際機関の職員の方々との出会いやネットワークは人生の財産となると思います。市民社会モデルに関する見識を深められただけでなく、リーダーシッププログラムにおいて発見した自分の「強み」や、今後のキャリアに関するアドバイスなど、これからの大学生活・社会人生活に直接的に生かすことのできる学びを得ることができました。学生生活最後の研修プログラムでしたが、これまで参加した中で、最も充実した研修でした。

③ 参加後の予定
就職

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

2週間という短いプログラムではありますが、日本ではなかなか経験することのできない講義やグループワークが詰まっています。興味があれば、ぜひ参加してください。

その他

① 準備段階や参加中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教育学部教育心理学コース 4 年

参加プログラム:Building TOMODACHI Generation

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

参加プログラムの概要

- 1.アメリカの Civil society(3 つのセクター間のパートナーシップ)についてのレクチャーや、ゲストレクチャー、施設見学
- 2.アメリカの学生と共に、東北復興の為にプラン構築とその発表

参加した動機

アメリカにそれまで行った事が無く、是非大学時代に行ってみたいと思った為

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
特に大変なものはありませんでした。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
ビザは不要でした
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
特に何もありませんでした。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
民間の保健に加入しました。
- ⑤参加にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(授業履修・単位・試験・論文提出等に関して)
春休み中だった為、特にありません。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
特に特別な英語の学習はしておりません。英語レベルは 1 年半以上前のものですが、TOEIC945 TOEFL101 です。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
寒い時期なのでホッカイロは持って行った方が良いでしょう。

学習・研究について

- ①プログラムのスタイル、印象に残っている内容等
アメリカの NPO の広報の仕方、資金集めの方法についてのプレゼンテーション及び講義が興味深かったです。
- ②学習・研究面でのアドバイス
読み物課題はありましたが、それ程大変な量でもありませんでした。
- ③語学面での苦労・アドバイス等
特にありません。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
主催者側が用意して下さったホテルに宿泊しました。
- ②生活環境(気候、周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
雪が何度か振りましたが、基本的には晴れて過ごしやすかったです。
交通機関も、地下鉄があり便利な印象を受けました。
- ③危機管理関係(渡航先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
国の首都と言う事もあり、治安は良い方だったと思います。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空費、授業料、食費、宿泊費などは全て主催者側もちでした。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
特に無し。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
毎日プログラムが入っていました。

参加プログラムの環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
事前に入ってくる情報はあまり多くありませんでしたが、困った事は特にありませんでした。

②設備面の状況(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
宿泊先や滞在先で PC Wifi が使用可でした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他の所感
今まであまり大きな関心を払ってこなかった Non- profit sector(NPO など)についての知見を深められ、非常に貴重な経験をしました。アメリカの NPO や国際機関、政府機関やビジネスセクターなど、様々な方とお会いする事で自分の見聞を広められたと感じています。

②参加後の予定

4 月から社会人として働き始めます。

また本プログラム中に行われた東北復興のプランコンテストで 1 位を取る事が出来た為、8 月に東北で 10 日間程のプログラムに参加出来る事になりました。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

普段得難い経験が出来る、非常に素晴らしいチャンスですので、興味のある方は応募して見て下さい。

その他

①準備段階や参加中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にありません。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい中の写真があれば添付してください。



